

東京薬科大学新聞

発行所 東京薬科大学新聞会
責任者 村野哲雄

六月号

四年生の投票率が

今後の課題

執行役員選挙終了

この度、執行委員会役員任期満了に伴い、五月二十四日(月)から二十六日(水)まで執行委員会役員選挙が行われた。それにより執行委員長に松野三氏、副委員長に勝田誠、小西麻紀両氏が信任された。総投票数は一〇五三票、投票率にして五〇・四八%と昨年に引き続き、前年度投票率を下回る結果となってしまった。

今年度も結果としては選挙の投票率が前年度を下回ったわけであるが、選挙管理委員長長守ヶ洞順氏は投票率低下の要因として、

一、例年と同様に四年生の投票率が低い。
二、学生一般においては、いまだに選挙の重要性を分かってもらえない。

と大きく分けて二点を指摘した。どちらも毎年問題となっている事柄であり、選挙管理委員会として今年は以上二点の問題解決のために、朝のヒラ配りや放送など徹底して選挙の宣伝に努めたわけであるが、今年度の選挙にはあまり効果はなかったようだ。今までのような地味な選挙ではなく、何とかなる権者たる学生に選挙の重要性を知ってもらおうという努力は準備できる

である。

また毎年四年生の投票率が低いことを受けて、研究棟に新たに投票所を設置する計画もあがっているようである。来年度においては「宣伝による選挙」というのがどのような形で引き継がれていくのか、大きな関心の一つと言えるだろう。

この度、新聞会では新しく執行役員に信任された三名に今後の抱負について伺った。

委員長 松野 了三

執行委員会がどのような活動をしているか学生の皆さんはあまりご存知でないと思います。しかし執行委員会とは学生の代表であり、大学と交渉できる唯一の機関です。過去においてはこの交渉によってバスの増発、談話室増設を実現し、さまざまな問題を解決してきましたが、今年は新学部が来年度より開設されることさらに多くの問題を解決していかななくてはならないと思います。私としては、これらの問題に對し学生の立場で接していきたいと思っております。御協力をお願いします。

副委員長 勝田 誠

今年度、私達執行委員会はさまざまな問題を解決しなければならぬことが予想されています。例えば、来年度に予定されている新学部の開設による部活動、各施設の問題や来年度からの学部学生駐車場の問題、また部室棟の管理の問題等です。これらの問題に對し、私は副執行委員長として委員長を補佐し、執行委員会全体のまとめで役割として皆様の「期待」に添えるように対処していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

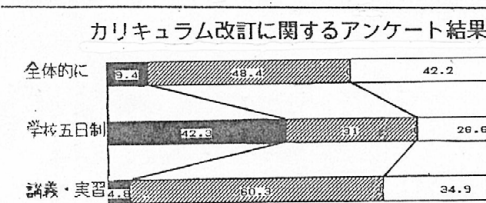
副委員長 小西 麻紀

今年カリキュラムの改訂や、来年度から新設される予定の新学部等に関するさまざまな問題があると思っております。そこで、このような問題を解決していくにあたって、先頭に立って学生をリードする執行委員長の良き補佐役でありたいと思っております。またそれと同時に、女性であるからその見方や考え方をよりよい方向へ活用できるように努力したいと思っております。よろしくお願致します。

以上のように、新執行委員会役員について三名は充分なやる気をみせている。執行委員会の活動について我々学生は具体的なイメージをつかみづらい。実際のところ、執行委員会の活動がめだつて表に現れないのが学生の執行委員会選挙への無関心に少なからず影響を与えてしまっているだろう。他の団体にも言えることだが、「自分選が何をしたか。今、何をしたいか」をアピールしなければ、協力を促すことはできない。学生自身、自分選が信任した執行役員に協力していくのは当然である。しかし、執行委員会においても、自分選の活動をアピールしてもらいたい。何をしているかさえ分かれば、学生としても執行委員会に對する関心が高まるであらう。

カリキュラム

今年四月に当学のカリキュラムが改訂されたから、はや二ヶ月近くたつた。それによって学生生活がさまざまな面で変わってきている。講義が詰まったり、実習テストが授業時間内に組み込まれたりした。二年生以上にとっては昨年までと勝手が違つて戸惑うことも多いだろう。そこで新聞会では、現段階での感想を二年生と三年生の一部のクラスをサンプルに取つてアンケートしてみた(詳しくはグラフを参照)。



これは社会的な流れにならつて取り入れたものだが、休日が増えた分、一週間の復習に利用できるため、疲れを逆に取り返して、土曜日の講義分のしわ寄せが平日にきつたり、選択科目が重なつてしまつた。これは社会的な流れにならつて取り入れたものだが、休日が増えた分、一週間の復習に利用できるため、疲れを逆に取り返して、土曜日の講義分のしわ寄せが平日にきつたり、選択科目が重なつてしまつた。

ムンク

「ムンク版画展」が六月十三日(日)まで開催されている。興味のある方、又はこの記事を読んで興味をもつた方は、是非足を運んでみてほしい。

一心の叫び

小田急美術館で「ムンク版画展」が六月十三日(日)まで開催されている。興味のある方、又はこの記事を読んで興味をもつた方は、是非足を運んでみてほしい。

「人間機関車」と呼ばれたチエコソバキアのランナーザトベックは、別名「世界記録破り」と呼ばれた。一九四九年から一九五五年にかけて一万メートルから六マイルまでの、八つの競技の世界公認記録をすべて書き換え、一九五二年のヘルシンキ・オリンピックでは五千メートル、一万メートル、マラソンの三種目で優勝。その時は「必ず勝つ」と思つて、その通り勝つた。とてもうれしいと言つた。彼には勝つ確信があつた。なぜか? 常に彼は言つていた。「世界中で僕より練習している人間はいない。だから勝つ」と。また「他人と同じことをしては、他人を抜くことはできない」が彼の信条であつたという。世界一の猛練習——彼は、練習の時に、すでに「勝つ」という強き一念と自信が彼を勝利に導いたともいえる。もし一時でも自分に対して疑いを抱いたとすれば、彼はこれほどの栄光を手にするとはなかつただろう。これは特別な話のように聞こえるかもしれないが、決してそうではない。我々の身に当てはめてみれば前期試験や国家試験などについて通用することで、いわば法則のようなものである。最後の土壇場の緊張の中で、自分を支えるものは結局、世界一だとは言わないまでも「やるべきことは、すべてやり切つた」という自信でありこのゆるぎない自信が最終的に勝負を分けているのだ。先石戸教授が講義中に「人間感とともに老ゆる」という格言を教えた下で、真摯に受けとめた言葉であると思う。(渡鳥)

